

東京教区時報

第1064号
2008年1月27日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇1月の代禱・信施奉献先
▽主教座聖堂の働きのため▽エルサレム教区の働きのため▽視覚聴覚障害者伝道のため▽聖教主福祉会のため▽ハンセン病問題啓発のため(大斎節前主日の一週前・1月27日)

《奉献先から》

日本盲人キリスト教伝道協議会「盲伝」(標記の略)は、1951年に盲人信徒と晴眼者信徒が協力して生まれた超教派の総合的な盲人伝道団体である。会費と献金のみで活動をしており、盲人と福音、教会と盲人をつなぐため様々なサービスをを行っている。毎年夏には、全国修養会の開催、点字の月刊誌・聖書や賛美歌などの図書・テープ雑誌の発

行、全国各地での伝道活動、各委員会の宣教活動、アジアの視覚障害者との交流など活動は多岐に亘っている。協議会議長には日高馨輔執事(聖バルナバ教会)が。なお、教区では視覚聴覚障害者伝道のために「盲伝」の他に、岐阜アソシア、盲人聴覚伝道社を支援している。

▽COAで新年会 今年度の最後となる中高生企画で、2月11日(休・月)、東京聖三一教会で開かれる。池の上駅(京王井の頭線)10時集合。参加費300円。また17日(日)には浅草給食活動の支援ボランティアへ。いずれも詳細は「COA通信78号」参照。

今週・来週の予定

1月27日~2月9日

- 27(日) 顕現後第3主日
主教巡回 小金井聖公会
下町G教会協議会(千住)
被頭日前の光の礼拝
(主教座)
- 29(火) 教区企画室
- 30(水) 主教小笠原出張
(~2月4日)
- 2月
- 1(金) 聖公会・カトリック合同
礼拝(東京カテドラル)
- 2(土) 被献日
被献日礼拝
①目白婦人会(目白)
②一粒の麦の会
(聖アンデレ)
- 3(日) 大斎節前主日
主教巡回 聖ジョージ教会
小笠原委員会
- 4(月) 人権委員会
- 5(火) 人権委員会
- 6(水) 大斎始日
下町教会G大斎始日礼拝
(聖ルカ)
- 8(金) 広報委員会
職員会

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

先日朝の番組で、森を再生させる試みの紹介がありました。従来植林では、一面に同じ樹種の苗木を植えて、間伐などの手間をかけて森を育てるのですが、紹介された方法はいろいろな種類の苗木を植えて、その地に合った樹が育っていくにまかせたもので、その地に適した樹木が自然に選択されるのです。

《恵みに生かされて》

弱者・敗者によって生かされているのち

戸川達男

実はこれは新しいことではなく、生命の歴史の中でつねにくり返されてきたこととです。このような自然のいのちの営みは、強者が生き残り弱者が消えていくという冷酷な現実のように見えますが、見方を変えれば、強者は弱者とともに生き、弱者から譲られたいのちを生きていくと見なすこともできます。神様は、いのちを誕生させるにあたって、一面に同じ樹種を植えるようなことはなさいませんでした。そこで、必然的に強者が生き残り、弱者が消えていくのが、神様はすべてのいのちを慈しむをもって見守っておられるに違いありません。しかも、強者はいつまでも強者であり続けることはなく、やがて弱者となつて、いのちの営みを次の世代に譲るのです。

礼拝で「天の全会衆とともに」という言葉を聞くと、わたしは弱者・敗者が生きたいのちによって生かされておられ、すべてのいのちが天の全会衆の中に等しく数えられていることを覚えたいと思います。(聖マルコ教会信徒)

常置委員会報告(1月15日)
 * 教区企画室委員(留任)・聖職試験委員の指名、聖職按手式前のリトリート手順、ランベス会議参加に対する再考状況などにつき主教報告。

* 主教巡回日の調整、墓地礼拝日一部変更(11月2日↓3日)、佐藤裕司祭(退職)の逝去・葬儀などの主教チャプレン報告、および教務・財務・宣教主事諸報告を受理。教区財務諸表(一般会計・特別会計等)の12月31日現在の財務報告を受理。

* 信徒奉事者・分餐奉仕者の任期(4月1日↓翌年3月31日)について確認協議。

* 常設・専門委員会委員の追加推薦了承。新設インターネット関連特別委員会委員推薦(一部

未定)、運営開始の優先を了承。
 * 08年度教区フェスティバルの日程・会場・委員長につき協議。
 * 春季教区会の日程変更(3月20日↓29日・土)を協議、確定。
 選挙管理委員7人を代議員以外から公募することを確認。
 * 聖職候補生志願者と面接の結果、同候補生認可妥当と了承。
 * その他。

▽春季教区会の日程 これまで3月21日前後、春分の日のお祭りを当てる開催してきたが、ことしは聖木曜日と重なって各教会の礼拝プログラムを斟酌すると、万一延長審議となるような場合17時以降はできにくくなる状況などを懸念。そこで復活日明けとなる週末、3月29日

(土)に実施することが決まった(常置委員会報告参照)。休日ではないため支障のある信徒代議員もおられようが、会期は3月中との規定から止む無く…と。近く公示が出される。

▽下町教会グループ大斎始日礼拝 恒例灰の水曜日の礼拝として2月6日(水)19時半から聖ルカ礼拝堂で行なわれる。司式・上田憲明司祭、補式Ⅱ下町G教役者、説教Ⅱケビン・シーバー司祭。当日の信施はカパティランの働きへ。会場Ⅲ03(5550)7043。

▽聖路加国際病院礼拝堂定例「オルガンコンサート&夕の祈り」 2月6日(水)18時半、19時からそれぞれ。演奏者は上野静江。会場献金。

【学びのプログラム】66

07年度の教区宣教活動を振り返って

エルサレム教区協働委員会では2月に北海道教区と協力し、横浜、大阪、神戸、九州を含む6教区、管区とNCCからの参加者14名のエルサレム教区訪問を企画しました。イスラエルによる屈辱的な支配下、命そのものが守れず、世界からの孤独感に苦しむパレスチナ人クリスチャンの元に日本聖公会のみならず駆けつけた、という熱い思いがありました。9月には新しい聖地旅行とヨルダンの盲学校でのボランティア活動(2週間)とを実施、13人(内青年5人)が参加。貧しくとも神様の愛に満ち溢れた施設で、こどもたちが

育まれているとのこと。

10月には、信仰と生活委員会主催、韓国のソウル教区訪問・ナムムの旅が5日間の日程で行われました。大聖堂で守られている(主日、早朝)聖餐式、社会宣教への取り組み、オモニ会の働き、神学教育プログラム、家庭集会、すべてに神様を信じる喜びが力となっていることを肌で感じた旅でした。11月にソウルのタシソギセンター(路宿者再起支援)から6人が来日された時は、ソウル教区訪問団メンバーたちが歓迎夕食会を準備、心温まる再会をしました。

これら他教区との協働プログラムを通して神様から頂いた「恵み」をどのように活かすかが、今後の課題となります。

信仰と生活委員会では、4つの信徒講座を開講したほか、青年支援部会、S連絡会スタッフ会、一粒の麦の会@東京教区など、自主的活動グループと担当委員の相互協力によって、教区の働きとして支えられる形が整ってきました。

正義と平和協議会では、加入9団体を中心とした懇談会が毎月第3水曜に行われるようになりまし。視野を広げ学び合いながら協働してゆることが期待されています。新たに、「日の丸・君が代」強制によって信仰上の困難を抱える信徒(教員)のために何かできないか、が話し合われています。

宣教主事 宮脇博子